

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和4年度第2回高松市環境審議会
開 催 日 時	令和5年2月17日(金)
開 催 場 所	高松市役所11階 114会議室
議 題	議 題 (1) 審議事項 ア 高松市公害防止条例施行規則の一部を改正する規則について イ 高松市環境基本計画の令和3年度取組状況について ウ 次期高松市環境基本計画に係るアンケート調査結果について エ 環境基礎調査の報告について オ 次期高松市環境基本計画策定のスケジュール等について (2) 報告事項 ア その他
公開の区分	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	審議事項アが高松市情報公開条例第7条4号に該当するため
出席委員	15人 角道 弘文(会長)、平 篤志(副会長) 生嶋 暹、石川 恵美子、今岡 芳子、植中 公幸、篠原 渉、 清水 まり子、谷川 進、筒井 由果、野崎 千恵、野島 誠、 元木 泰史、山田 明広、山本 麻有里、
欠席委員	0人
傍 聴 者	0人 (定員 5人)
担 当 課 及 び 連 絡 先	環境総務課 (Tel839-2388)

審議経過及び審議結果

議 題

(1) 審議事項

事務局から内容を報告した後、意見交換が行われた。

ア 高松市公害防止条例施行規則の一部を改正する規則について

(委員)

国のボイラーの規制は、残るということでよいか。

(事務局)

そのとおりである。

※審議の結果、一部改正について「了」となる

イ 高松市環境基本計画の令和3年度取組状況について

(委員)

「河川BOD値の環境基準の達成率」は、令和2年度はE評価だったが、令和3年度はA評価に大きく転じたのはなぜか。

(事務局)

現状維持を目標にしている指標であり、令和3年度は環境基準を達成した地点が、1カ所増え、現状維持ができたため、A評価となった。令和2年度は目標値に達していないので、E評価だった。ここは、A若しくはE評価となる設定としている。

(事務局)

次期環境基本計画改定の際には、指標等も見直すので、改めて判断基準等を整理していきたい。

(委員)

「廃食油収集」について、令和3年度に事業を廃止したが、ボランティアでできなくなった理由があれば教えていただきたい。

(事務局)

廃食油収集については、くらし安全安心課所管が、市消費者団体連絡協議会の取組を支援していたものであり、環境局としては、ごみ分別ガイドブックに記載のとおり、固形化や紙に含ませて、燃えるごみとして出してもらっている。焼却施設においても、助燃剤機能を補い、熱エネルギーや電気エネルギーに再利用している。

ボランティア団体側では、受入地域のニーズの違いや近年の廃食油収集量の減少などから、対応継続が難しくなったと聞いている。

今後、各コミュニティ協議会を窓口として、廃食油の収集活動をしているところにアンケート調査を実施し、可能な範囲で、問い合わせのあった市民へ個別に情報提供を行うような支援をしていきたいと考えている。

(委員)

廃食油は貴重な資源なので、市全体として廃食油収集に取り組んでいただきたい。

(委員)

最近では、動力の代替エネルギーとして着目されており、収入源になる可能性もあるので、検討していただきたい。

(事務局)

廃食油は、再利用、リサイクルの観点から、カーボンニュートラルにもつながる。家庭から出る廃食油については、脱炭素に向けて有効的な活用になるという視点を持ちながら、今後の国や県の動向を見て、市行政として、対応可能な範囲での支援方法を検討していきたい。

ウ 次期高松市環境基本計画に係るアンケート調査結果について

(委員)

アンケート調査から、「ゼロカーボンシティ宣言の認知度が低い」とあるが、定

期的にアンケート調査を実施すると、認知度も向上するのではないかと。

(事務局)

「ゼロカーボンシティの認知度」等を調査するアンケートは、ゼロカーボンシティ推進課で、毎年実施していく予定であり、認知度向上に努めたい。

(委員)

前回実施したアンケート調査の属性を示すことは可能か。また、事業者アンケートについて、回答した業種は建設業が多いが、基礎調査報告書を見ると、高松市は、卸売業、小売業、医療、福祉の事業所が多い。市の意見として、妥当性はあるのか。

(事務局)

前回実施したアンケート調査の属性については、確認し、可能なら示したい。事業者アンケートについては、関係機関に依頼し、無作為で抽出しているが、回答にばらつきのあるのは仕方ない部分もある。妥当性ということであれば、アンケートをしないことよりも、回答業種の状況もあわせて公表し、妥当性が高まると言える。

(会長)

事業所アンケートで、建設業の方々の回答が多かったのは、この業種からの関心が高かった、ということも言えるのではないかと。

(事務局)

そのとおりである。

エ 環境基礎調査の報告について

(委員)

環境基礎調査報告書の「環境基準達成状況」だが、各河川の「類型」はどのように設定しているのか。

(事務局)

香川県が定めており、元々の河川の水質状態に合わせて、類型を決めている。

オ 次期高松市環境基本計画策定のスケジュール等について

意見なし

(2) 報告事項

ア その他

意見なし

【会場：15：30 閉会】